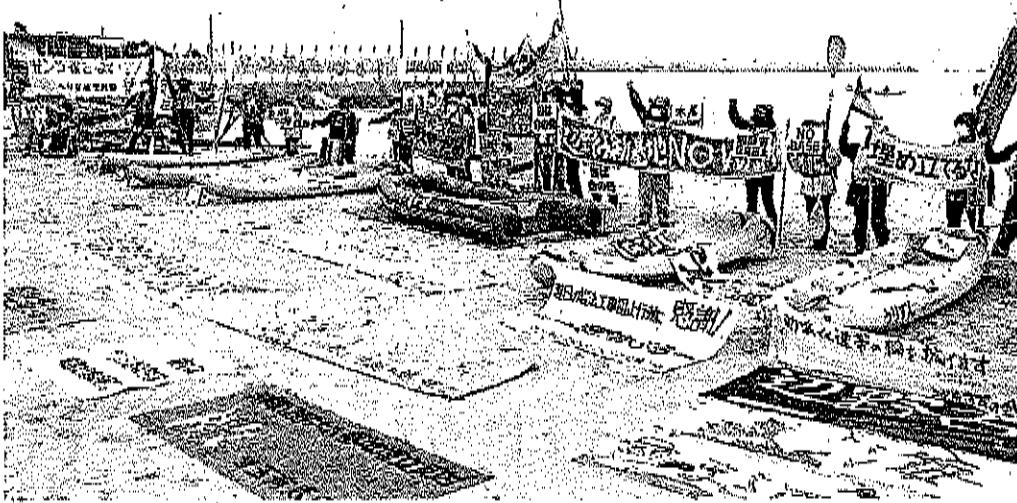


(1/15 系統)

新基地 絶対とめる

土砂投入4年 辺野古の浜で集会



沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設で、海への埋め立てと土砂投入が強行されてから4年で4年となりました。新基地建設に反対する「くじ撲滅反対協・海上行動チーム」は毎日、埋め立て工事現場が眼前に広がる辺野古の浜で土砂投入と工事の中止を求める集会を開きました。

約160人の参加者は、参加者を鼓舞しました。

知事選や農民投票で否され、カヌーで海上から抗議行動を続けるメンバーがりしれ、「新基地反対の圧倒的民意を無視して工事を続ける岸田直公政権に抗議」「平和主義に犠牲を強いられる基地建設や命をねじやかす新基地はいらない」と叫び、櫂をたたきながら横断幕や旗を掲げ、「美しい海守れ」「沖縄県民は困ひなう」と声をあげました。

（つづく）

（つづく）

土砂投入の強行から4年となり、「建設をやめる」と廣をあける集会を14日、沖縄県名護市辺野古

沖縄 絶対とめる

北側（大浦側）は、軟弱地盤改良に伴う国の設計変更申請を玉城デニー知事が不承認としたため工事はできませんでした。集会参加者は「民意を顧みず青い海へ土砂が投入された日の深い悲しみ、憤りを決して忘れるとはできない。大規模な自然破壊であり、戦争へつながる新基地建設の即時中止を強く求め」とする声明を探査しました。

小松のよみが存在だが、政府の大きな力を止めている。「来年は勝利して戻る」「来年は勝利して戻る」などアピールしました。

（つづく）

（つづく）